

例 言

1. 本書は、2023年度に京都府立大学文学部歴史学科の教員と学生がおこなったフィールド調査、およびそれに関連する研究、調査研究成果の活用についての概要報告集である。
2. 第Ⅰ部には、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）をはじめ、京都府下において歴史学科教員が中心となって実施したフィールド調査の概要を収録した。なお、複数年度にまたがる研究課題については、2023年度以前の調査成果とあわせて収録している場合がある。
3. 第Ⅱ部は、京都府外の地域を対象に、科学研究費補助金の研究課題や受託研究、実習授業などの一環として、歴史学科の教員と学生が中心となって実施したフィールド調査の概要を収録した。
4. 第Ⅲ部には、京都府立大学文学部歴史学科が中心となって進めている京田辺市史、和束町史の編纂事業に関わる調査の速報を収録した。京田辺市とは2017年度より京田辺市史編纂に関わる「連携協力に関する覚書」を締結しており、2022年度は大学全体と「連携協力包括協定」を締結することになった。包括協定を結んだことで始まった京田辺市内の小学校との連携事業についても第Ⅲ部に取り上げている。また、和束町とは2017年度より「連携協力包括協定」を締結している。
5. 第Ⅳ部には、歴史学科の学生による課内・課外での取組み内容の報告を収録した。なお、本年度の「文化遺産学フィールド実習」（歴史学科2回生向け実習科目）では香川県小豆郡小豆島町に赴いた。本書ではその調査成果の一部を示す。
6. 本号の編集は岸泰子が担当した。

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、3年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。(き)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第10号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
